

ツーリスト、橘さん、中味のある旅行を計画していただきましてありがとうございました。

齊藤興一君 旅行は楽しかったでした。正宗の刀を見て鉄の美を感じました。

齊藤正君 欠席続きでご迷惑をおかけしました。お詫びの証（しるし）です。

山本賢君 ちこく、ごめんなさい。

佐藤啓策君 石川さん、卓話御苦労様です。楽しく拝聴させていただきます。

山崎勲君

大橋政雄君 ボックスに協力。

石川友意君 先日の新年会、皆さんたいへんありがとうございました。

笹原壮玄君 節分法要、事故なく完了に乾盃。

青木省一君 BOX協力。

丸山勝君 ボックス協力。

ロータリー財団：

青木省一君 BOX協力。

世界理解月間： 国際奉仕委員会委員長 堀川 正幸

2月は「世界理解月間」ですが、その前に先程幹事より紹介のあった件について皆様にご覧いただけます。先頃インターネットでRID3050地区のアシスタントガバナーより木宮会長宛にインドのラデコット地域に人形博物館の建造プロジェクトがあるので協力して欲しいとの依頼がありました。今年度は国際奉仕委員会としても大きなプロジェクトがなかったので、是非協力したいと思っております。理事会の承認も頂きました。できれば、名称、産地、由来などもつけて欲しいとのことなので後程文書で正式に出しますので宜しくお願い致します。

さて本題の「世界理解月間」につきましてですが、ロータリー用語早わかりにはこのように書かれています。1905年2月23日は、ポール・ハリス、ガスターバス・ローア、シルベスター・シール、ハイラム・ショーレーの4人が初めてシカゴで会合を開いた記念日で、2月を「世界理解月間」と指定、この月間中、ロータリークラブは世界平和に不可欠なものとして、理解と親善を強調するクラブ・プログラムを実施し、世界社会奉仕（WCS）を中心としたプログラムを行うよう要請されている。また2月23日の創立記念日は「世界理解と平和の日」と定められ、各クラブはこの日、国際理解と友情と平和へのロータリーの献身を特に認め、強調しなければならない。

1992年規定審議会は、2月23日に始まる1週間を世界理解と平和週間と呼び、ロータリーの奉仕活動を強調することを決議した。世界理解と言っても解りにくいのですが世界には戦争や飢餓、貧困などがはびこっています。まず現実をしっかりと理解認識することが大切なのではないかと思います。

卓 話： 「ペイオフ」 石川 勝行会員



#### I ペイオフ（PAY OFF）がなぜ大問題となるのか

命の次に大切なお金の保管の取り扱いを、構造改革ということで急に代えようとするところから発生。

##### 1) 各立場からみると～絶対とか永遠はこの世にない。

1. 預金者＝預金（命の次に大切なお金）は絶対に安全であり又あるべきと思っている
2. 金融機関＝金融機関が自己の公表資料（決算書等）を絶対、正しいと思って（言って）いたこと

3. その他政府等＝ペイオフを実行し金融機関が倒産したら絶対、経済パニックになると思っていたこと

##### 2) 結果としての影響

1. 預金者＝運用方法等の未熟。無用の心配
2. 金融機関＝どんなに説明しても、安心を得にくくなった。優良な金融機関までも疑われている
3. その他政府等＝こんな不景気なときにペイオフをやらなくてもよかったはず

##### 3) 預金者としての対処

絶対とか永遠という物はないということを認識し、積極的に情報収集し、適度なところで早めに行動すること。田植えをすれば相当の確立（絶対に近い）の下で稲刈りができる（農耕民族）。今日ここで獲物がとれたので明日もここで待とうと言うことはナンセンス（狩猟民族）。又情報は農耕民族にとって共有の財産であるが、狩猟民族では自分のみの財産。ロータリークラブの奉仕の精神も根元は狩猟民族からでは。北ロータリークラブの皆さん頑張りましょう。今後は自己責任においての社会です。

#### II 預金者の具体的対処法～日本経済新聞記事

詳細等は事務局に資料がありますのでご希望があれば差し上げます。

#### 会員の声： ～2002年新卒内定者入社説明会 社長挨拶より～ 坂本 勝司

新しく134名の皆さんを迎えるにあたり、この中から、この人なくして当グループを語る事ができないといわれるような人材が現れることを期待します。

皆さんが学生から当社の社員になるにあたって、さまざまな意識の改革が必要です。まず、会社に就職したからといって、職が保証できたわけではありません。これで職の確保を保証できたと考えていたら行き詰まってしまいます。競争に勝ってこそ職の確保が保証できるのです。

学生と会社員の根本的に違う部分はまずどちらが費用を負担するかということです。学校は学生が費用を支払い知識を入手する場であり、一方会社は皆さんの能力、会社への貢献度、仕事の質と